

平和学習を終えて

網走市立呼人中学校 三年
木澤 柚貴（きざわ ゆずき）



僕は、8月5日から8日に実施された網走市の「青少年平和都市友好交流事業」に参加し、広島県と東京都を訪れました。特に、「原爆ドーム」や「ひろしま子ども平和の集い」、「広島焼」が印象に残りました。

1つ目の原爆ドームは、1945年8月6日に広島に投下された原子爆弾の爆心地近くに位置し、爆風で破壊された原爆ドームの周囲には、崩れたレンガや大きく曲がった鉄骨がそのまま保存されていて、戦争の恐ろしさを無言で伝え続けているかのようでした。教科書などで何度も見たことがあるものの、実際に見るとその破壊の凄まじさに胸が痛みました。平和記念公園広島資料館は、翌日の平和記念式典参加者や海外の旅行者で入口から長蛇の列だったので、入館することができませんでした。原爆ドームを見学して、当時の状況を資料館で詳しく知りたくなり、必ずまた訪れようと心に決めました。

2つ目の「ひろしま子どもの平和の集い」は、全国から集まった小中学生や高校生と一緒に平和について考える有意義な時間を過ごせました。特に、14歳の時に被爆し現在93歳の梶本さんが、スライド写真を基に語る体験談は、真っ赤に染まった空、爆風の衝撃、そして道や川に敷き詰められた遺体の数々を「地獄を見た」と語った時に、その辛い光景が目に浮かぶとともに、梶本さんは、当時の思い出したくない状況を思い出してしまっているのではないかと、胸が苦しくなりました。梶本さんの講話から、戦争や原爆がもたらす悲惨さを改めて痛感し、二度とこのような悲劇を繰り返してはならないと思いました。

3つ目の広島焼は、専門店が軒を並べ、そのエリア一帯に美味しそうな匂いが漂い、本場の味に期待が高まりました。お店の方が手際よく焼き上げた広島焼は、そばや卵などが層になっていて、ボリューム感満点でした。一口食べると、外はカリッと、中はふんわりとした食感で、甘辛いソースとの相性が絶妙でした。初めてヘラを使って食べましたが、とても美味しくて、いつの間にかヘラを使うのを止めて箸で食べていました。広島焼は、戦後アメリカ軍から配給された小麦粉を使って作られた料理が、現在の広島焼の原型になったと知りました。広島焼は、まさに戦後の復興の象徴だと思いました。戦争を機に食文化が変化していることに興味を持ちました。

僕は、原爆ドーム見学やひろしま子ども平和の集いへの参加、広島の食文化などを通じて、戦争の悲惨さと復興や平和の大切さを改めて実感しました。戦争の記憶を次の世代に伝える中で、僕たち一人一人が平和を守るために何ができるかを考え、行動することが大切だと感じました。さらに、世界を平和にするためには、お互いを尊重し協力することが大事だという思いが強くなりました。

最後に、猛暑を含め今回の平和学習は、僕にとって、貴重な体験ができ充実した4日間となりました。今後もこの事業を通して、多くの子どもたちが平和学習を深められると良いと思いました。